

二部地区活性化だより

## 野上川の風

発行  
二部地区活性化推進機構編集会  
総務部会

事務局

〒689-4233  
西伯郡伯耆町二部1562-1  
二部公民館内  
TEL・FAX 0859-62-7159

## &lt;いっしょうけんめい 伝え 聞く&gt;

二部地区の年間の最大イベントである二部公民館主催の「たたらまつり」は二月二十二～二十四日の三日間、天候にも恵まれ、多数の来場者(約七百名)で賑い盛会のうちに終えること出来ました。

毎年のことながら、各集落からの展示作品も幼児から高齢者まで幅広く多彩であり感心しました。また、各種同好会の作品展示も年間発表の場であり、力作揃いで見応えがありました。

特に、今年「たたらまつり」三十周年にあたり節目の開催となり、昨年末より実行委員会において、特別展のテーマをかつて二部地域で繁栄していた「たたら製鉄」にスポットを当てることに決定、特別展の委員も選任し、視察、研修、資料収集などが実施され、その成果が展示されました。

特に、伯耆町文化財保護審議員の篠田光明氏には、「たたら」に関する展示品、資料の提供など当初から参画、協力を頂き充実したものとなりました。

「たたらまつり」の名物となっている二部女性会(ごぶしの会)による三日間にわたる「ぜんざいのサービス」のおもてなしには敬服するほかありません。

屋外のテントでの地元農産物・加工品の販売も人気があり、恒例の「なめこ汁」も好評でした。

この「たたらまつり」が二部地区のコミュニティの場として、また活性化の一助となるよう願うものです。

二部「たたらまつり」を終えて

福島 中田 壽國

## JPA日本写真作家協会一般公募 「鳥取県知事賞」受賞の喜び

二部 中田 具実

私は写真撮影に興味を持ち三十年余りになりますが、今回ほど驚き嬉しかった事はありません。

この度、米子市美術館リニアルオープンを記念して、今春、米子市美術館で日本写真作家協会巡回米子展が開催されるに伴い鳥取県知事賞が設けられたことを知り、一般公募に応募しました。

今まで写真コンテストや公募には全く興味が無かったので、なぜか今回は応募してみようと思う気持ちになり、自信满满(笑)で『朝日に染まる雲海』で応募したところ、まさかの「鳥取県知事賞」に入賞し驚きました。

受賞作品は、私が「夜明けから日の出」までを、何時も愛犬と共に行く場所から撮影した作品です。この日は今まで見た事のない様な雲海が足元まで現れ、無我夢中でシャッターを切った一枚です。

元々、「大山の顔」と言うテーマを持って「国立公園大山」を撮り続けていましたが、還暦も過ぎ撮影範囲も狭まりました。その代わり朝早く目が覚める様になり、夜明けから日の出までの「大山」を撮り続け、現在も気象条件の良い日は撮影に行きます。季節により暗い内から山に登るのでやはり怖い面も有り、必ず相棒(愛犬)を連れて登ります。そのお陰で周囲を気にせず安心してシャッターを切る事ができ、足かけ四年間同じ場所からの撮影です。

人は四季折々の風景を作り出す事は出来ません。出来る



<朝日に染まる雲海・焼杉地内より>

のは自然の中にとけ込み、四季折々の風景を見ながら毎日の生活を繰り返す、あ！と思う風景を自分なりに構図を決め、「風景には豊作不作なし」の思いで自由にカメラで撮すだけです。これからも伯耆町内の美しい大自然と、二部谷から眺められる大山にこだわり続け、写真を撮り続けていきたいと思っています。

## 西畑池区誕生

西畑池区長 吉川 明秀

二部から上代山を望むと、最初に見える地域が畑池です。野上川を挟んで左側が東畑池、右側に見えるのが森脇、畑池中央、さらに県道を進むと池田です。この度、この右側の三つの集落(池田、森脇、畑池中央)を一つの集落に再編し、名称を「西畑池」としました。

再編を行なったのは、「少しでも集落にかかる負担を軽減しよう」を合言葉に、五年後、十年後、元気な畑池の礎いずえを造ろうという目的からです。平成二十五年六月より集落の現状と課題、「どんなことをどんなふうにするか」効率よく、また負担をどのように軽減できるのか、勉強会を重ねました。



<東畑池より森脇・畑池中央を望む>

十一月には集落再編の計画を各集落へ説明し、十二月には全体集会を開催しました。全体集会において住民の集落再編の意向を確認し、集落再編移行準備委員会を立ち上げ、月十一日の設立総会へ向けて年明け早々より規約案、事業案、予算案、組織案の準備を行い、あわただしい中でしたが設立総会を開催し、「西畑池区」の誕生に至りました。

地域で生活する人々の意向が集約される一つの大きな力となる受け皿がたち作られた、という想いがしています。帰ってくる人、事情により出て行く人、住民の知恵にこだわらず、広範囲にわたる知恵の活用を図ることにより、元気な地域づくりを実現したいと思っています。

この「西畑池区」の誕生が、単なる負担の軽減にとどまらず、大きな付加価値を呼ぶかもしれません。次世代にも集落の大きな幹(きき)となり、大きな文化の華が開くことを夢みています。

## 「ハロウィーン」イベントと今後の抱負

二部 梁山泊 顕 梶間 晋二郎

昨年度に引き続き、平成二十五年年度も巨大カボチャを加工した「ハロウィーン」イベントを行いました。今年度は昨年度よりも大きなカボチャが沢山収穫でき、カボチャ提灯づくりイベントが出来ました。

今年度は二部地区活性化推進機構と共同実施し、二十七名の参加がありました。当日はメンバの指導により、大人と子どもとがペアでカボチャ提灯づくりをし、ワイワイと賑やかにカボチャ提灯を製作しました。子どもたちは、真剣な眼差しでカボチャに顔を描いたり、カボチャの中に手をつ突っ込み、種を取り出す作業など、普段では経験できない体験をしました。カボチャ提灯完成後は、カレーをみんなで食べてイベントを終了しました。来年度は、更に巨大で多くのカボチャ提灯を作り、二部地区の夜を彩りたいと思います。

また、鳥取力創造運動支援補助金を活用し、畑池地内にツリーハウスを制作しています。まだ制作途中ですが、今夏よりツリーハウスを拠点とし、二部地区の子どもと市街地の子どもが交流し遊べるようなイベントを実施したいと考えています。二部地区の子どもたちにも郷土愛が育まれるような楽しいイベントにしたいと考えていますので、イベントの際には皆様のご協力をいただければ幸いです。



<ハロウィーンイベント>

# 先進地視察研修に参加して

総務部会員 安達良文

十月二十五・二十六日の二泊二日の日程で、農事組合法人「グリーン日吉」(京都府南丹市日吉町)と奥銀谷地域自治協議会(兵庫県朝来市生野町奥銀谷おおくがき)への先進地視察研修に参加しました。

初日は、平成十二年にJ-Aの統合を機に加工部門を引き受ける形で設立し、六次産業の取り組みをしている農事組合法人「グリーン日吉」を視察しました。日吉町の特産品である「丹波黒大豆・丹波大納言・壬生菜(みみずな)」などを使って付加価値を高める加工品事業を柱とし、農業経営および担い手や後継者不足に対応するため、年間を通じた黒豆の消費と価格維持、付加価値向上で有利販売を目指されています。その取組と効果は、消費者の集まる各種イベントに積極的に参加し消費者との交流により、加工



<奥銀谷地域自治協議会>

品全体で億三千万円の販売額、また雇用面では正社員二名、アルバイト十四名を雇用し、三十種類以上の商品を開発されています。

二日目は、少子高齢化などの社会変化で人口の減少が進むに伴い地域のシンボルであった奥銀谷小学校と幼児センターが閉校・閉園になり、地域の求心力の低下が懸念されたため、地域住民が主体となり地域活性化の切り札として平成二十年に立ち上げられた「奥銀谷地域自治協議会」を視察しました。

幼児センターを拠点施設とするため、兵庫県の県民交流広場事業の採択を受け、改修・整備されました。施設には、「図書・映像ルーム」「会議室」「多目的ホール」「葬儀会場」「玄關ホール」「玄關前グラウンド」があり、初心者と子ども対象の囲碁教室・書道教室・ふれあい行事(子供と高齢者との正月遊び)・歴史を聞こう(歴史教室)・銀谷ひな祭り協賛・正月用寄せ植え講習会・地域安全マップづくり・高齢者安心生活支援事業(買い物一部支援&安否確認)等の活動をされています。また、地域の憩いの場として子どもから年寄りまでが気軽に集える場を設けることを目的に、拠点施設に「ふれあい喫茶だんらん」をオープンされています(毎週水曜日と土曜日に開店)。

「みんなが主役いきいき元気奥銀谷」をまちづくりの基本方針として取り組まれている活動は、二部地区にも参考となる良い研修となりました。

# 不法投棄防止看板設置に当り

住みよい環境部長 畑 嘉夫

日頃より二部地区の皆様には、年二回の二斉清掃に御協力いただきましてありがとうございます。以前と比べると、ゴミの量は少なくなってきました。しかし、まだ二部の地域では不法投棄が後を絶たず、ゴミの量も減りません。

その対策として、テレビ番組で以前、神社の鳥居(とりゐ)の形の看板を設置したところ、ゴミの量が減って効果があったのを見たことを思い出し、また南部町の一部の地域にも設置してあることから、二部地区でも取り組もうと計画し、実施しました。

十一月十七日、不法投棄が多い間地(まじ)、福岡、福居地区を中心に十九基設置しました。設置後、十二月中旬に見回りをしたところ、いつもは多い間地峠の駐車場には、空き缶等のゴミはなく、効果がありました。

まだ不法投棄が多い場所は他にもあるため、この看板を平成二十六年度も継続したいと考えています。新たに看板を設置してほしいという要望がありましたら、ご連絡ください。二部地区に多くの鳥居の形の看板を設置するのは本意ではありませんが、ド



<看板の設置作業>

ライバーの皆様が「なぜ看板があるか」を理解されマナーを守って、ゴミのポイ捨てや不法投棄が一日も早く無くなりますように願っています。今後皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

# ヘルシー料理教室

趣味と生きがい部会副会長 影山紀子

一月二十九日、二部公民館で「お腹いっぱい食べて健康になる」をテーマに料理講習会が開催され、二十名の参加がありました。

- ◆ 献立は、米飯、二汁三菜で、季節の野菜をたっぷり
- ◆ 一食が五百キロカロリー前後
- ◆ 栄養バランスが良い
- ◆ 塩分控え目
- ◆ おいしく満腹になれる



<おいしくできたかな～>

中心に四種類の和洋エスニック風の料理を四班に分かれ、各班一種類ずつ作りました。減塩食を味わうため計量を正確にすることに努め、香辛料を使って味に変化をつけたり、カロリーを控えるため油を使わず、焼きつけます。

出来上がった料理は、目と舌で味わうことを学びながら、皆で楽しく四種類の料理を試食しました。

# 〈古代ロマン〉 山陰で最大の中世鑄造工房発見

二部公民館長 石田 励次

伯耆町教育委員会が、平成二十二年に三部一区の裏山と現在山陰になつて居る所の千五百mを「砂防堰堤(えんてい)建設工事」の為、遺跡調査を行いました。

二部公民館で行なわれた遺物展示会や調査報告書を見るにつけ、古代ロマンとして、私は魅了されました。

三部古城山(じょうやま)遺跡の南側には、中世城郭野上城があり、遺跡は城の麓(ふもと)に位置します。戦国時代から江戸時代初めにかけての大規模な鑄造工房跡でした。

鑄造で作る鑄物(いもの)は、炉で木炭を使用し、鉄銅を高温で溶かし、粘土で作った鑄型(いがた)に流し込み、鍋・羽釜・茶釜・梵鐘(ぼんしょう)「上記全て出土」、仏像などを作る技術です。その技術は高度で、多くの知識と熟練が必要とされ、奈良の大仏もこの技術で造られています。

また、この調査では、二基の古墓も発見されました。遺跡からは、中国・朝鮮から輸入された磁器「青磁(せいじ)、白磁(はくじ)、染付(ぞめけ)」や、国産陶器「備前、瀬戸、唐津(からつ)」も出土しています。

●城の真下での鑄物作りは、鑄物師と城主(じょうしゅ)の関係は？

●当然、鉄を使う為、近くにあったタタラ製鉄との関係は？

●梵鐘(ぼんしょう)作りは、近隣の寺で使用か？多くの寺があった大山寺との関係は？

●製鉄の中に含まれていたクロム鉱(こう)と日南町のタタラとの関係は？

●製産量山陰最大であったこの地の鑄物師が江戸時代初めに忽然(とつぜん)と消えたなぞは？

等々、思ひは尽きません。ロマンは二部谷を駆けめぐる。

〈参考文献〉

『三部古城山遺跡発掘調査報告書』

(伯耆町教育委員会)



〈三部古城山遺跡〉

# 二部小学校総勢二十五名

二部小学校長 木下 欣夫

現在、二部小学校児童は総勢二十五名です(六年生一名、五年六名、四年二名、三年七名、二年五名、一年四名)。少ない人数なので、全校で行動することがよくあります。今回はそのうち二つを紹介しましょう

まず一つめは給食です。これは毎日、全校児童が多目的教室に集まって学年や色別班で集まって食べます。



〈給食〉

もう一つは、全校ジャンプアップテストです。毎月一回、一年生から六年生が多目的教室に集合して、国語(漢字)と算数(計算)のテストをします。このテストの問題は子どもたちには二週間前に知らされます。子どもたちは、学校や家で問題がすらすら解けるように練習してこの時間に向かいます。テストが開始されると二年生も六年生も一斉に鉛筆をカリカリと走らせます。



〈ジャンプアップテスト〉

他にも、少ない人数だからこそできる風景がたくさんあります。どうぞ二部小学校において頂きご覧ください。

# 解放文化祭「だんだんまつり」

文化センター館長 野口 泰彦

人権・同和問題の理解と解決を目的に、毎年、文化センターで開催している解放文化祭「だんだんまつり」では、センターの活動と地域の取組みを広く皆さんに紹介しています。今年も二月十五・十六日の二日間、多くの方にご来館いただきました。

文化センターに配属となり、早いもので二年になろうとしています。この三年間を振り返ると、一年目より、二年目、二年目より三年目と、人権問題に対して思い入れが強くなったと感じています。「人権とは？」簡単なようで難しい。人権を語るとき、常に自分自身に問いかけ、反省をすることしきりで、自問自答の日が続いています。多くの人は日常的に自分と差別とのかわりを自覚できず、逃避的・無関心になりがちです。私も自分自身が差別に対して傍観者であったことに気づきました。お互い自分と差別との関わりを自覚し、人権について考え、相手を尊重し、良い社会になるよう願っています。



〈ふれあいの午後〉

今後とも、皆様の二層のご支援、ご協力をお願いいたします。

# あどがき

桃の節句を過ぎた春の雪。趣があるというのか、異常というべきか。

今回発行する「野上川の風」は、今期の委員の最終号となりました。二部地区活性化推進機構の事業だけではなく、二部地区の様々な取り組みを取り上げてきました。今後紹介しきれないほどの活発な取り組みが行われることを確信して「あどがき」とします。